



【撮影】平成29年12月千歳タウンプラザ

## まちなか×新・にぎわい

人がつながる千歳の新名所・まちライブラリー

中心市街地の核・民間商業施設タウンプラザ1階に開設している「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」が、昨年12月に1周年を迎えました。一般から寄贈された図書で成り立つ民間図書館であり、地域住民の創意工夫で事業展開が行われる斬新な運営とあいまって、学生や主婦層を中心に関心が寄せられています。新春特集では、中心市街地に芽生えた新たな《にぎわいの場》をご紹介します。

# 中心市街地に、新しい「風」が吹き始めています

中心市街地の象徴的な場所である《タウンプラザ》に、連日、高校生や親子連れなどの若い世代を中心にたくさんの市民の皆さんが訪れ、これまでとはちょっと違う、新しい人の動きが生まれています。

### 市民のニーズと新たな民間活力

「中心市街地にある商店街の活性化」は、今や全国の自治体にとって、共通の課題となっています。市においても、昭和50年代から、活性化のためにさまざまな取り組みが行われ、一時は人通りが戻りますが、数年でまた人影が少なくなってしまう状況が繰り返されてきました。市が、平成27年度に実施した《商業振興に関する市民アンケート》の結果では、回答者の7割が、中心市街地の商店街を「ほとんど利用しない」と答えており、中心市街地の商店街が地域の交流やにぎわいの場として役割を果たしているかという問いに対しては、半数の方が否定的な回答でした。一方で、中心市街地の商店街にあったら利用したいと思うものについては、「市民活動や交流の場」「子どもの遊び場」「高齢者が集う場所」が上位を占めており、

市民が商店街に求めるものは、必ずしも「買い物」だけではなく、世代を超えて市民が集い交流する《憩いの場》が求められています。これらの市民ニーズを受け、28年3月に策定した《第2期千歳市商業振興プラン》では、基本目標の一つに「中心市街地としてのにぎわい形成」を定め、各種施策を講じているところです。

そうした中で、同年12月に《千歳タウンプラザ》の施設所有者は、同施設内を改装。キッズスペースや室内パークゴルフ場の併設などといった、民間活力により、中心市街地に新たな人の流れが生まれています。

### にぎわいを創出するホテルの新増設

今年、千歳駅の東側と仲の橋通に、新たに2つのホテルの開業が予定されています。

2階のキッズスペースには平日でも数多くの親子連れが集う



地下の室内パークゴルフ

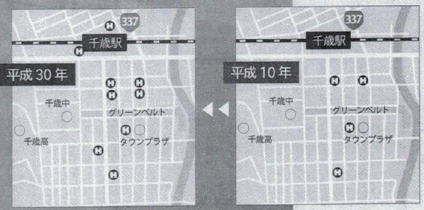


### 新春特集 まちなか×新・にぎわい

人がつながる千歳の新名所・まちライブラリー

下の図は、20年前と今年の年末の状況を比較した中心市街地のホテル①の配置を示したものです。ホテルの数は、4棟から9棟へ、客室数は413室から1373室へと3倍以上増える予定です。仮に、1部屋に1人の利用者が毎日宿泊すると仮定すると、960人の《交流人口》が増えることになり、1つの町内人口に匹敵する人の数が、中心市街地に集中することになります。最近、まちなかに外国人などの人通りが多いと実感される方は少なくないと思われ、交流人口増加の現れだといえます。

こうしたホテルの新増設にプラスして、市民がまちなかに集う、明るい光も見えてきました。「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」での市民交流活動です。この、市民が集い交流する、新しい《憩いの場》は、昨年12月に1周年を迎えました。



公募で選ばれたまちライブラリー@千歳タウンプラザのマスコットキャラクター「ちーたん」